

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第52週に76件の報告がありました。新規感染者数は、これまでに経験したことのない速度で増加しています。広島県は、国に対してまん延防止等重点措置の適用を要請しました。

感染拡大防止のため、マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気などの基本的な対策に加え、外出の半減やPCR検査を積極的に受けるなどの対策を徹底しましょう。

【参考】感染急拡大を受けたレベルの引き上げとまん延防止等重点措置適用の要請について【R4.1.6会見】(広島県)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/20220106.html>

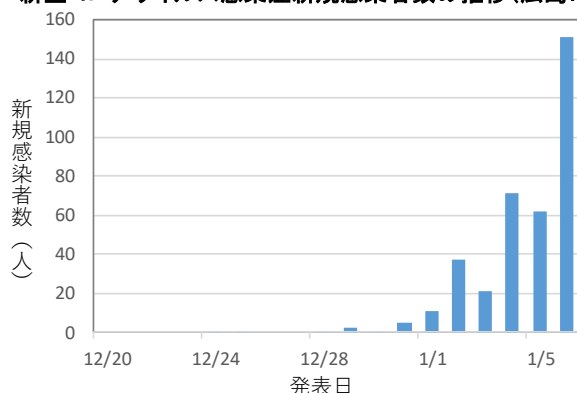
2 感染性胃腸炎

冬季はノロウイルス等による感染性胃腸炎が多くなります。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など感染予防対策を徹底しましょう。

3 梅毒

2件の報告があり、今年の累計は105件となりました。(次ページ参照)

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



広島県実施のPCR検査

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

PCR検査の実施について(広島県)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/269/hiroshi-mapcrcenter.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	9.64		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.08	
	咽頭結膜熱	7	0.30	0.33			RSウイルス感染症	3	0.13	0.38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.43	1.61			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	101	4.39	7.65			流行性角結膜炎	-	-	0.45	
	水痘	2	0.09	0.53			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	40	1.74	0.36			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.22			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	4	0.17	0.30			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.17			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第52週)は、年末年始の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、前週(第51週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	111	50歳代、80歳代
5	梅毒	2	105	30歳代、40歳代
5	百日咳	1	3	50歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎) (ロタウイルス)
報告数	広島市	第48週	-	1	11	107	1	70	-	5	9	-	1	1	3	-	-	-	-	-
		第49週	-	9	9	151	2	85	1	12	13	-	2	-	4	-	-	-	-	-
		第50週	-	15	13	143	6	47	-	13	14	-	1	-	1	-	-	-	-	-
		第51週	1	9	14	173	6	63	-	5	9	3	1	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第52週	-	7	10	101	2	40	1	4	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-
		第48週	-	0.04	0.46	4.46	0.04	2.92	-	0.21	0.38	-	0.04	0.13	0.38	-	-	-	-	-
		第49週	-	0.38	0.38	6.29	0.08	3.54	0.04	0.50	0.54	-	0.08	-	0.50	-	-	-	-	-
		第50週	-	0.63	0.54	5.96	0.25	1.96	-	0.54	0.58	-	0.04	-	0.13	-	-	-	-	-
全国	全国	第51週	0.03	0.39	0.61	7.52	0.26	2.74	-	0.22	0.39	0.13	0.04	-	-	-	-	-	-	-
		第52週	-	0.30	0.43	4.39	0.09	1.74	0.04	0.17	0.17	0.04	0.13	-	-	-	-	-	-	-
		第50週	0.01	0.28	0.75	7.42	0.18	1.00	0.01	0.33	0.27	0.03	0.36	-	0.19	0.02	0.02	0.02	-	0.01
		第51週	0.01	0.32	0.73	7.78	0.16	0.87	0.01	0.32	0.21	0.03	0.40	-	0.20	0.02	-	0.01	-	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第52週(12月27日～1月2日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
10	7	20	12	8	3	3	4	9	-	76

【累計報告数(1月2日)現在】

※2020年からの累計報告数です。

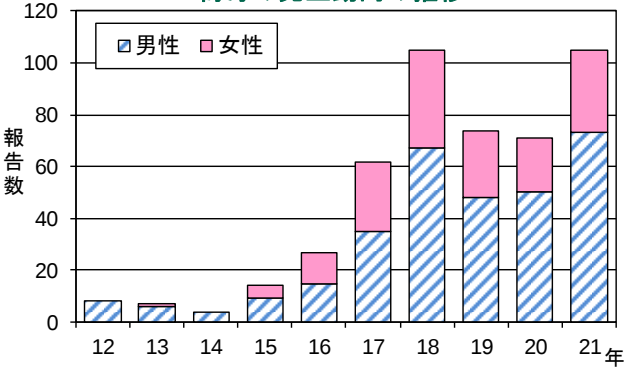
10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
658	1,192	3,247	2,084	2,073	1,649	992	754	552	67	13,268

「風邪かな？」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。
全日24時間対応

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市における梅毒の発生動向について

梅毒の発生動向の推移



【参考】「梅毒に関するQ&A」(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

今年の累計報告数は105件となり、1999年の感染症法施行以降の調査において 2018年と並んで最多となりました。

梅毒は性的な接触により感染し、感染後3～6週間の潜伏期を経て、陰部等の感染部位にしこりができたり、鼠径部のリンパ節が腫れることがあります。治療せずに放置すると、時に無症状になりながら進行し、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすこともあります。

また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や早産等が起こることがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

梅毒に感染した恐れのある方は、医療機関を受診しましょう。また、感染した方のパートナーなど、周囲で感染の可能性がある方も検査を受け、治療を行うことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp